

## 「九州支社」開設、ビジア小倉に新オフィス 三菱総研DCS 人材確保を目的に

ここからは、北九州市におけるIT企業の進出や拡張に関する動きを見ていく。

三菱総研グループでシステム開発を手掛ける三菱総研DCS(株)(東京都品川区、亀田浩樹社長)は4月1日、九州で初の拠点となる「九州支社」を北九州市小倉北区に開設。同区にオープンした最新オフィスビル「ビジア小倉」にオフィ



三菱総研DCSの猪野厚志九州支社長(右)と中村祥子副支社長

スを構えることが決まった。関西支社、東北支社に次ぐ国内3カ所目の支社で、これから積極的な「地方拠点」の展開を期する上で、最初の進出エリアに北九州市を選んだ形だ。猪野厚志九州支社長は進出の目的について、「一番の狙いは人材の確保」と端的に話し、「採用への訴求力を見据えたブランディングや多様な働き方を実践する『モデルオフィス』として、積極的に九州から新たな試みにチャレンジしていくつもり」と意気込みを語る。

設立から半世紀以上の歴史を持つ同社をもってしても、「昨今の売り手市場の採用競争では、人材の確保に苦戦している」と猪野支社長は実情を話す。「大手企業を中心にBtoBで成長してきた企業なので、学生や求職者層の知名度は高いとはいえず、採用戦略、ブランディングの転換が求められていた」と経緯を話す。

採用力強化に向けた戦略の一つとして、まず「地方拠点」の展開に注力した同社。エンジニアを中心とした「地元雇用」の受け皿となる開発拠点を新設し、地方採用を強化する方針を打ち出した。当然、その口火を切る進出地に求められる条件は「理工系を中心とした人材が豊富」であること。理工系人材が多く、年間約3000人の卒業生を輩出している北九州市に白羽の矢が立った。

検討段階では「福岡市の博多・天神も有力候補だった」と振り返る。北九州市を選んだポイントとして、「古くから『モノづくりのまち』としての素地があり、より理工系人材が集まりやすいイメージがあった」と前置き、「雇用の受け皿の問題もあり、地元で就職は全体の2割程度とのことで、潜在的に『地元に残りたい』と希望する人材の割合はかなり高いと見られる。優秀な学生はもちろん、UJターンのキャリア採用を進めるのに適した地域であると判断した」と説明する。

さらに、「北九州市の誘致への熱意、充実した補助金等も、進出の決断の後押しとなった」と強調する。

「地方拠点としての狙いに沿った運用ができるかどうか、慎重にトライアルを進めた。結果、「当初見込んでいた地域の強みや、オフィス・住環境と進出までの歩みを話す。」

こうした職場としての先進性、多様性をPRする狙いがあつたからこそ、「このエリアで約20年ぶりの新築オフィスビルであり、最新鋭のスペックを備えたビジア小倉に入居できたのは、非常にタイミンクに恵まれた」と猪野支社長は笑顔で話す。支社は当初5人でスタートしたが、すでに採用活動を本格化しており、「3年で50人を目標に、精力的に人材を確保していく」と意欲を示す。実は中村副支社長も、九州支社開設を前提に採用された北九州市出身のUターン経験者であり、「私自身が地元へUターンしたように、UJターンのニーズを汲んだキャリア採用にも大いに期待をかけている」と語る。

また新拠点の魅力について、人材採用面だけでなく、「社員の「QOL」の面でも大きなアドバンテージがあると見ており、「小倉駅周辺にコンパクトに都市機能、交通アクセスが集約されているにも関わらず、住居費はじめとする生活コストは東京と比べても格段に低い。東京で生活するよりもさまざまな面で『余裕』が出ることは間違いなく」と中村副支社長は利点を強調する。

猪野支社長は九州支社の展望について「九州全域の産学官と積極的に連携を模索し、地方発の新たなソリューションを生み出していくつもり。その上

冒頭で猪野支社長が触れたように、九州支社は「当社の新たなブランディングの柱となる、『新しい働き方』を先んじて実践するオフィス」と位置付けられた。このコンセプトに沿って、「オフィスの機能やレイアウトには従来の拠点にも増してこだわり、積極的に先進的な仕様を取り入れている」と中村祥子副支社長は力を込める。

オフィスの広さは約85坪。フリーアドレスを導入し、床の配色をオフィスの区分けに利用する一方で、オープンな職場環境を意識すると

もに、代わりに集中して仕事するための個別ブースやカウンター型デスクを充実させた。中村副支社長は「オフィスはガラス張りで全面が見渡せるようになっており、学生などの見学者、取引先などが数多く訪れることを想定した『魅せるオフィス』の前提で設計した」と解説。オフィス自体が同社の新しい働き方、先進的な職場環境の魅力を発信する役割を担い、採用への訴求力を期待する。また支社長室などの個別スペースはあえて設けない一方、セミナーや説明会が開ける共有スペースにウエイトを割いている。

また新拠点の魅力について、人材採用面だけでなく、「社員の「QOL」の面でも大きなアドバンテージがあると見ており、「小倉駅周辺にコンパクトに都市機能、交通アクセスが集約されているにも関わらず、住居費はじめとする生活コストは東京と比べても格段に低い。東京で生活するよりもさまざまな面で『余裕』が出ることは間違いなく」と中村副支社長は利点を強調する。

猪野支社長は九州支社の展望について「九州全域の産学官と積極的に連携を模索し、地方発の新たなソリューションを生み出していくつもり。その上

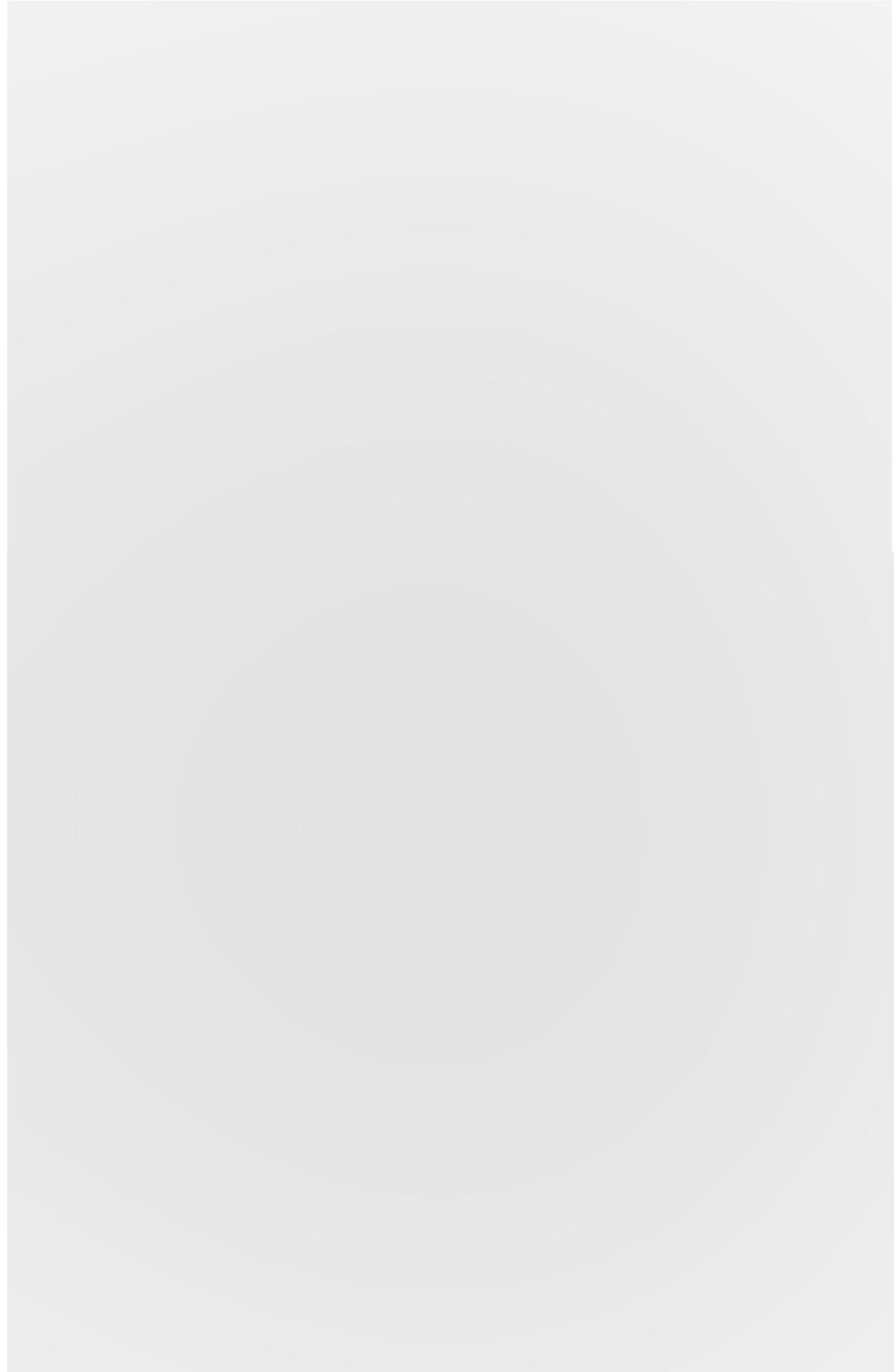
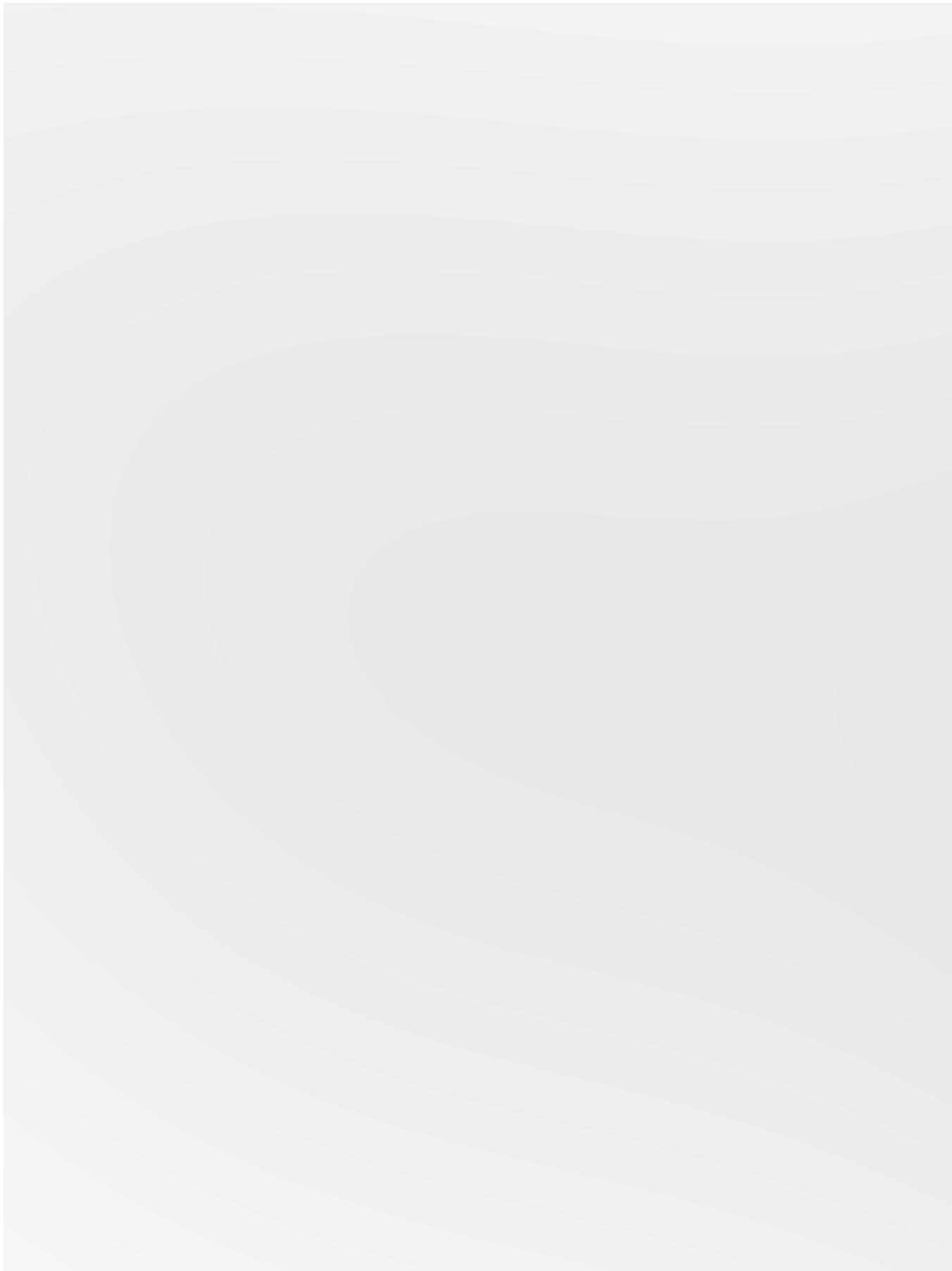


ビジア小倉でオープンする九州支社のイメージパース。フリーアドレスをはじめ、オープンな職場環境で積極的に新たな働き方を実践していく

## 三菱総研DCS株式会社 北九州市 立地協定締結式



4月24日、北九州市との立地協定締結式。亀田浩樹三菱総研DCS社長(左)と握手する武内和久北九州市長



では、特に拠点を置く北九州市において、地域の活性化につながる役割を担っていききたい」と後に続く地方拠点のモデルとなるビジョンを掲げた。